

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察特殊報第1号について

鹿屋市の飼料用トウモロコシにおいて、「フタテンチビヨコバイ」(*Cicadulina bipunctata* (Melichar))の発生が認められ、特殊報第1号を発表したので送付します。
なお、病害虫防除所ホームページ(www.jppn.ne.jp/kagoshima)にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

平成21年5月19日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 フタテンチビヨコバイ (*Cicadulina bipunctata* (Melichar))
(半翅目ヨコバイ科)

2 作物名 トウモロコシ

3 発生確認及び発生状況

平成20年に鹿屋市の飼料用トウモロコシほ場(二期作目)において生育抑制の被害が発生した。大隅地域振興局農政普及課で現地ほ場内に高密度に生息していたヨコバイを採集し、鹿児島県病害虫防除所で同定した結果、フタテンチビヨコバイ(写真1)と判明した。

4 分布及び生態等の特徴

分布: 本種は九州北部を北限としてアジア・オセアニアの熱帯・亜熱帯地域に広く分布する。
国内では九州や南西諸島での採集記録がある。

生態: 本種は体長が約3mmで、春～夏にかけてオヒシバ、メヒシバなどのイネ科雑草で増殖し、7月以降に密度が高くなり、9月～10月に発生ピークを迎える。

被害: 本種がトウモロコシを吸汁加害するとワラビー萎縮症と呼ばれる生育抑制の被害が発生する(写真2)。この症状は葉脈がこぶ状に隆起してゴール化し、展開葉の成長が著しく抑制され、激しい場合には収量が著しく低下する。

5 防除対策

現在、飼料用トウモロコシにおいて、フタテンチビヨコバイを対象とした殺虫剤は農薬登録されていない。

- (1) ワラビー萎縮症の発生地域では抵抗性品種の作付けを行い、被害の回避に努める。
- (2) フタテンチビヨコバイの発生が多い場合は、二期作目を播種適期(7月下旬～8月中旬)の早い時期に播種する。

6 参考文献: 松村 正哉 (2005) : 昆虫と自然 40(12) : 11-14
松村 正哉 (2005) : 九州病害虫研究会報 51 : 36-40
松村 正哉 (2005) : 今月の農業 9月号 : 26-30



【写真1】フタテンチビヨコバイ成虫 【写真2】トウモロコシに発生したワラビー萎縮症

※ 写真提供は（独）農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター 松村正哉氏